

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：芦原 直哉 作成日：2025年12月23日

1. 教育の責任

スポーツマネジメント専攻の責任者として、専攻学生に社会人としての基礎的なコンピテンシーを養成し社会での困難な問題を解決できる能力を養成する。

今年度の実施科目は以下の通り。全て演習科目である。

【春学期】

- キャリアデザインⅠ 2単位
- キャリアデザインⅢ 2単位
- スポーツ強化演習Ⅰ 6単位
- スポーツ強化演習Ⅲ 6単位
- スポーツ強化演習Ⅴ 6単位
- ゼミナールⅠ（スポーツマネジメント） 2単位
- ネゴシエーション 2単位
- バリュー 2単位

【秋学期】

- キャリアデザインⅡ 2単位
- キャリアデザインⅣ 2単位
- スポーツ強化演習Ⅱ 6単位
- スポーツ強化演習Ⅳ 6単位
- スポーツ強化演習Ⅵ 6単位
- ゼミナールⅠ（スポーツマネジメント） 2単位
- ストラテジー 2単位
- オーガニゼーション 2単位

【複期】

- 卒業研究（スポーツマネジメント）

2. 教育の理念

問題解決型学修・自己主導型学修を通じて学生の自立性と有能感（成長感）を醸成し、学生が社会で多くの問題を解決できる高い知的能力：コンピテンシーを修得することを目指す。

3. 教育の方法

【教育目標】

PBL型学修とSDL型学修により、問題解決能力を構成する基本的なコンピテンシーを修得する。

（1）問題解決型学修（PBL型学修）

教育手法の基本はPBL型学修である。PBL型学修で効果が高いと考えるケーススタディを基本の教育手法とする。PBL課題学修を通じて問題解決能力を養成する。

- ・ケーススタディ課題学修により、分析力、論理的思考力、計画力等を養成する。
- ・ケーススタディ課題発表を通じて、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、行動力等を養成する。
- ・ケーススタディ学修全体を通して倫理観、リーダーシップ、チームワーク能力を養成する。

試験方法もPBL型論述試験とする。課題を事前に与えて、学生はそれについて自己学修して試験に臨み自分の考えを論述する。この試験により分析力、論理的思考力が著しく伸長する。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際日本学部 名前：芦原 直哉 作成日：2025年12月23日

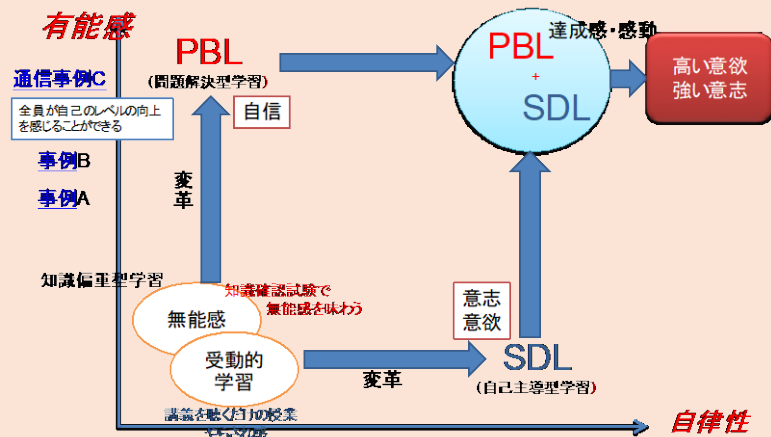
(2) 自己主導型学修 (SDL型学修)

自律的な学びでなければ教育効果は高められない。学びは授けられるものではなく、学生自らが主体的に行い獲得するものであるとの基本的な考えに立脚し、講義授業は行わない。授業は学生が自ら学んだ成果を相互に発表し、ディスカッションを通して他者から学ぶ学修の場とする。

専門的な理論学修などは、教科書及びオンデマンド学修資料により学生は授業外で自己学修する。

学んだ内容や質問点については、レポートを提出する。質問には丁寧に回答する。これにより自己主導的な学修成果が可視化できる。

試験は全て論述形式で実施している。論述することで学生は論理的思考力、分析力、コミュニケーション能力等が養成される。単なる記憶力を試す試験は行わない。



4. 教育の成果

授業の成果は如実に現れている。

(1) 授業見学・授業アンケート等の内部評価

授業アンケートの結果は偏差値65前後を常にキープしている。学生がこれまでの大学にない課題解決型学修、自己主導型学修に学びの喜びや達成感を得ていると思われる。

(2) 学会・研究会、高大連携、産学連携等における外部評価

2014年度の私立大学情報教育協会によるICTによる教育改善研究論文発表会で協会賞を獲得した。「学修成果の蓄積とパフォーマンス評価を実現した学修システム群の構築」

“The Construction of an Integrated Learning System for Accumulation of Learning Outcomes and Performance Evaluations”

5. 改善への努力と今後の目標

【添付資料】

著書：問題解決能力開発メソッド 2011, 2014, 2016

著書：ロジカルプレゼンテーション作成手法

論文：The Construction of an Integrated Learning System for Accumulation of Learning Outcomes and Performance Evaluations

シラバス

授業アンケート